

千葉市スマートシティ推進ビジョン（案）に対する意見の概要と市の考え方

No	該当箇所	ページ	意見の概要	市の考え方	修正
1	はじめに	1	「私たちが直面している少子高齢化や地球温暖化に伴う気候変動などの課題は、今後ますます深刻化する懸念があり、行政のみならず、全ての市民や事業者の皆さんと一体となって解決に向けて取り組んでいく必要があります。」と記載されているが、基本的な考え方、取組の方向性、推進体制・推進方法等には、少子高齢化や地球温暖化の言葉があるだけである。少子高齢化と地球温暖化は現実起こっている事象であり、今後ますます深刻化するため、千葉市スマートシティ推進ビジョンには、少子高齢化と地球温暖化の言葉の掲出だけでなく、スマートシティに結びつく実質的な取組を明記してもらいたい。 なお、P9「4 取組みの方向性～5つのスマート！～」の図において、外側のサークルには、地球温暖化の文字はあるが、少子高齢化の文字がないため、加えた方がよい。	本ビジョンは少子高齢化や地球温暖化に伴う気候変動などに起因する課題に対する取組みの方向性を示すものであることから、修正いたします。 なお、本ビジョンは計画とは異なり、目指す姿や取組みの方向性等を示す指針となります。実質的な取組みについては、本ビジョンとは別に同時公表いたします、「スマートシティプロジェクト2022」を作成し、掲載してまいります。 また、P9「取組みの方向性～5つのスマート！～」の図の外周は、課題を記載しているのではなく、各スマートに関連する取組例を記載しております。少子高齢化の取組みについては、地域コミュニティやスマート農業に含めて記載しておりますので、案のままさせていただきます。	○
2	1 策定趣旨	3	テクノロジーの活用等により、市民生活の質の向上を図るとともに、持続可能なまちづくりを進めるためのビジョンとされているが、現在策定中の各種計画にどのように位置づけていくのか。	P4「2 位置づけ・期間」に記載のとおり、「総合計画におけるまちづくりを推進し、スマートシティを実現するため、各個別部門計画と整合を取りつつ、分野横断的な指針」として位置付けておりますので、各個別部門計画策定・更新時や取組開始時には、分野横断的に各部門との連携を図ってまいります。	—
3	3 基本的な考え方①	5	【みんなでつくり、感じる「快・適なまち」】のように、“感じる”を追加することを提案する。快適とは感じることだと思う。 また、構成要素の順番は、「様々な主体が、地域の問題解決、新たな価値の創造に取り組んでいる【市民主体】」「あらゆる市民が自分に最適な暮らしを実感できる【個別最適】」「自然環境に配慮しながら、大切な資源を活かし、持続的に発展している【全体最適】」とし、【】内の言葉は、【個別最適】→【個人実感】、【全体最適】→【持続可能】とした方が、標語と合致すると思う。	【みんなでつくる「快・適なまち」】には“感じる”の文言は含めておりませんが、構成要素の1つに、「あらゆる市民が自分に最適な暮らしを実感（個別最適）」を掲げており、この表現に“感じる”趣旨を含めておりますので、案のままさせていただきます。 また、構成要素の順番や【】内の言葉については、P6「3 基本的な考え方」で【みんなでつくる「快・適なまち」とは何かを説明しておりますが、テクノロジーの活用や環境の整備等により市民一人ひとりが自分に合ったサービスを受けることができ（個別最適）、自然環境に配慮しながら、限りある時間・空間・その他の資源を賢く有効に利用することで持続的に発展しつづけることが可能（全体最適）なまちを、様々な主体とともに実現していくもの（市民主体）と考えておりますので、案のままさせていただきます。	—
4	3 基本的な考え方①	5	【みんなでつくる「快・適なまち」】を表現するイメージ図の外周にある「再生可能エネルギーの活用」の文言を、「再生可能エネルギーの活用などのエネルギー利用の最適化」に修正してもらいたい。 本ビジョンが20年後を見据えての10年程度を対象期間とするならば、再生可能エネルギーの活用だけでは不十分であるとする。国が策定した「第6次エネルギー基本計画」において、2030年に向けた政策対応のポイントは徹底した省エネの更なる追及と記載があることや、再生可能エネルギー・蓄電・デジタル制御技術等を組み合わせた脱炭素化エネルギーシステムへの挑戦が、幅広い産業を巻き込んで加速しつづける。大規模な電力会社やガス会社の中には、再生可能エネルギーを中心とした分散型エネルギーシステムの開発や水素・メタネーションへの挑戦に着手する企業も出始めている。	国の計画等に照らして、「再生可能エネルギーの活用」のみでは不十分であることから、いただいたご意見を踏まえ、「再生可能エネルギーの活用など」に修正いたします。	○
5	3 基本的な考え方②	6	自然環境に配慮しながら、大切な資源を活かし、持続的に発展している【全体最適】中、「例えば、脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー利用、生活インフラの効率的な維持管理が挙げられます。」のうち、「再生可能エネルギー利用」を「再生可能エネルギーの活用などのエネルギー利用の最適化」に修正してもらいたい。 本ビジョンが20年後を見据えての10年程度を対象期間とするならば、再生可能エネルギーの活用だけでは不十分であるとする。国が策定した「第6次エネルギー基本計画」において、2030年に向けた政策対応のポイントは徹底した省エネの更なる追及と記載があることや、再生可能エネルギー・蓄電・デジタル制御技術等を組み合わせた脱炭素化エネルギーシステムへの挑戦が、幅広い産業を巻き込んで加速しつづける。大規模な電力会社やガス会社の中には、再生可能エネルギーを中心とした分散型エネルギーシステムの開発や水素・メタネーションへの挑戦に着手する企業も出始めている。	国の計画等に照らして、「再生可能エネルギー利用」のみでは不十分であることから、いただいたご意見を踏まえ、「再生可能エネルギー活用などのエネルギー利用の最適化」に修正いたします。 あわせて、「生活インフラの効率的な維持管理」についても、「生活インフラの維持管理の効率化」に修正いたします。	○

No	該当箇所	ページ	意見の概要	市の考え方	修正
6	3 基本的な考え方④	8	個人情報の保護についての不安がある。様々なサービスをマイナンバーカードがないと受けられないという状況になるのか。	個人情報の取扱いについては、サービス検討時の重要事項の一つと捉えております。サービス検討時においては、法令等を遵守することはもとより、有識者の意見や国内外の事例等も踏まえて慎重に検討してまいります。 次に、様々なサービスをマイナンバーカードがないと受けられないという状況になるのかについては、必ずしもマイナンバーカードがないとサービスを受けられない訳ではありません。 なお、マイナンバーカードにつきましては、国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」により、令和4年度末までに、ほぼ全国民に行き渡ることを目指しているため、行政サービスについては、マイナンバーカードを活用する機会が今後増えていくことは想定されるものと考えられますが、誰もが安心してマイナンバーカードを利用することができるよう、不安を抱えている方々の解消に向けて、マイナンバーカードのセキュリティ対策等の周知に努めてまいります。	—
7	3 基本的な考え方④	8	個人情報の取り扱い、デジタル社会を構築する上で重要な要素である。現個人情報保護法では、個人情報を取り扱う責任者の必要な資格が明確ではない。官または官に準じる組織の責任者ならば問題ないと理解されるならば、スマートシティ推進の主体は市民ではなく、市役所となってしまう。「個人情報の取り扱いを明確化」との記載があるが、実施サービスごとの取扱責任者（主体）も明確化してもらいたい。	個人情報を収集・使用するサービスの検討に当たっては、個人情報の管理方法や主体を明確化するように留意いたします。また、個人情報の取扱いにつきましては、法令等を遵守することはもとより、有識者の意見や国内外の事例等も踏まえて慎重に検討してまいります。	—
8	3 基本的な考え方④	8	④安心・安全について 新たなテクノロジーを悪用された場合の対策があった方がよい。	本ビジョンは、日々進化するテクノロジー活用を前提としており、いただいたご意見の内容についても含んで記載しておりますので、案のままとしてさせていただきます。なお、運用に当たっては、いただいたご意見を今後の取組みの参考にさせていただきます。	—
9	4 取組みの方向性～5つのスマート～	9	情報弱者への配慮がないと、格差がますます広がるのではないかと懸念があるが、どのように対応していくのか。	P7「3 基本的な考え方（2）スマートシティの実現のための原則と重視する視点」において、市民中心を最重要原則に掲げており、あらゆる市民が活躍できる環境の実現を目指します。 具体的には、P12「4 取組みの方向性3 学びがスマート！」にて「高齢者などのデジタルデバイドの解消」を取組例に記載しており、創出されるサービスの恩恵を誰もが享受することができるよう、デジタルデバイド対策を進めてまいります。	—
10	4 取組みの方向性1	10	少子高齢化の現状に着目すると、高齢化に対しては「健康寿命の延伸」というキーワードで触れているが、少子化については直接的な表現が見当たらないため、「出産・子育て」というキーワードを、目指す姿の要素の“充実した生活”の方向性・取組例欄に加えた方がよい。	いただいたご意見を踏まえ、目指す姿の要素の“場所や時間を問わないサービス”の取組例「多様なサービスのオンライン提供（遠隔医療等）」を「多様なサービスのオンライン提供（遠隔医療、子育て支援情報等）」に修正いたします。あわせて、P11「4 取組みの方向性2 ビジネスがスマート！」の目指す姿の要素“仕事や生活のバランス”の方向性を「ライフステージ・ライフスタイルに合った就労」に修正いたします。	○
11	4 取組みの方向性3	12	「千葉市に対して愛着を持ち、郷土について学ぶことができる」とあるが、これは、ICTの導入だけで実現できるものとは思わない。 地域での暮らしの中で、様々な人間関係に出会い、良い体験をたくさん積み重ねていくことでしか、市に愛着など持てるとは思わないので、少し過大な表現ではないか。 「郷土について学ぶ場合にデジタル技術の活用が一部役に立つ」程度ではないか。	テクノロジーの活用により、見学困難な文化財をVRで見学したり、現地の職員が装着するカメラに接続し、ライブ映像を見ながら意見交換したりするなどのメリットがあると考えており、学びの手法が増えることで本市への愛着が深まる機会を創出できるものと考えておりますので、案のままとしてさせていただきます。	—
12	4 取組みの方向性4	13	目指す姿の要素「環境にやさしく」の取組例「脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー利用」について、「脱炭素社会に向けたスマエネ*の構築」に修正してもらいたい。*スマエネ：スマートエネルギーネットワーク 本ビジョンが20年後を見据えての10年程度を対象期間とするならば、再生可能エネルギー利用だけでは不十分であるとする。国が策定した「第6次エネルギー基本計画」において、2030年に向けた政策対応のポイントは徹底した省エネの更なる追及と記載があることや、再生可能エネルギー・蓄電・デジタル制御技術等を組み合わせた脱炭素化エネルギーシステムへの挑戦が、幅広い産業を巻き込んで加速しつつある。大規模な電力会社やガス会社の中には、再生可能エネルギーを中心とした分散型エネルギーシステムの開発や水素・メタネーションへの挑戦に着手する企業も出始めている。	ご意見の内容については、目指す姿の要素「環境にやさしく」の方向性「資源・エネルギーの最適化」に含めていると考えておりますが、いただいたご意見を踏まえ、「脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー利用など」に修正します。	○

No	該当箇所	ページ	意見の概要	市の考え方	修正
13	5 推進体制・推進手法③	17	P17右図の“データ連携基盤（都市OS）のイメージ”において、サービス例（水位監視、Mass利用、観光情報etc.）は、推進体制・推進手法の記載内容からすると斬新ではなく、既存のサービスの範疇と思われる。それよりも、P.10～P.14の5つの取組みの方向性（暮らし、ビジネス、学び、まち、市役所がスマート）に置き換えた方がよい。	本スライドは、データ連携基盤（都市OS）とは何かをわかりやすく伝えるための解説的な役割で作成しております。右図のサービス例についても、わかりやすさを意識して例示しておりますので、案のままとさせていただきます。	—
14	5 推進体制・推進手法③	17	基盤導入を先行するのではなくニーズに応じて導入とあるが、どのくらいの期間で準備出来るのか。	都市OSの整備時期については、P18「ロードマップ」の「データ連携」に記載のとおり、概ね5年後を想定しております。	—
15	6 ロードマップ	18	市民参加ー10年後「行政と地域との双方向のコミュニケーション」ができるようになると、市民の代表である議員の存在意義が薄まり、情報量が多くなって、有意義な情報の抽出や意見の集約に時間がかかるようになると思われる。5年後までの段階で十分ではないか。	20年後のイメージの一つとして「あらゆる市民がつながり、市民主体のまちづくりの実現」を目指しており、現状に照らし、段階的に市民参加を発展させていくことが必要と考えられることから、今後の状況を踏まえて必要な取組みを進めてまいります。	—
16	【資料2】策定の背景②	21	自然災害のリスクとして大地震の発生による被災リスクを掲げているが、より頻度が高く、生活インフラに大きな被害をもたらす“台風”を追加した方がよい。	台風は本市を取り巻く重要な社会変化の一つとして捉えており、P20「○ 地球温暖化に伴う気候変動リスク」に記載しております。	—
17	【資料2】策定の背景③	22	「時間を返す」市民サービスについて、すべて、時間がかかることが良くないという認識は間違いだと思う。とても急いでいる場合は別だが、待ち時間に、色々なポスターを見たり、チラシを手にとったりという余裕も必要な時がある。次から次へと、淀みなく行動することが全て良いとは限らないという認識のもとに進めていただきたい。	市へのお手続きの利便性をより高め、市民の皆様が本来自由に使える貴重なお時間を増やすことが重要であると考えております。 なお、本市も時間がかかることは全て良くないとの認識は持っておりませんが、P5「3. 基本的な考え方①」に記載のとおり、本市が目指すスマートシティの理念の一つに「個別最適」を掲げておりますので、行政手続においても、手続に要する時間を減らし、市民の皆様が使える時間を増やすことで行動の選択肢を広げ、自分に最適な暮らしを実感できるよう努めてまいります。	—
18	【資料2】策定の背景③	22	「あなたが使える制度お知らせサービス」を「ちば電子申請サービス」にログインした際に確認できるようにしてもらいたい。	いただいたご意見につきましては、今後のサービス向上を図る上で参考にさせていただきます。	—
19	【資料2】策定の背景④	23	市民全員参加のまちづくりについて、これまでのちばレポの試みはかなり評価できると思うが、まだまだ知らない人が多い。また、「市民参加」は行政と市民が直接つながることだけを指すのではないと考える。市民同士が話し合ったり、支え合ったりする中で、千葉市との良い関係がつけられていく。横方向の繋がりをつくるスマートシティ戦略も考えてもらいたい。	ちばレポのさらなる認知度向上に努めてまいります。 また、市民参加については、行政と市民が直接つながるだけでなく、市民同士のコミュニケーションや支え合いも重要であると認識しておりますので、テクノロジー活用による横方向の繋がりを意識した取組みを積極的に進めてまいります。	—
20	【資料2】策定の背景④	23	ちばシティポイントのカードのデザインを選べるようにしてもらいたい。可能であれば、自分の好きな写真や画像をカードにしてもらいたい。	いただいたご意見について、今後の取組みの参考とさせていただきます。	—
21	【資料2】策定の背景⑦	26	AIにより、情報が提供される社会について、AIが個人にとって適切な判断ができるとは思えず、大部分の人にとっては有効かもしれないが、少数の人にとっては都合の悪いものであると考える。	地域課題の解決や市民ニーズへの対応を図るため、AIの活用も手段の一つとして捉えておりますが、個人の価値観にも配慮しながら、活用を検討してまいります。	—
22	その他	5～8 10～14 15～17	ビジョンの構成で、P.5はページごとに○囲み数字が付いているが、P.2のビジョンの構成にはないものであり、削除した方がよい。 4 取組の方向性、5 推進体制・推進手法も、ビジョン構成と対応するページのタイトルは合致させるのが一般的だと思う。ただし、4 取組みの方向性は、ビジョンの構成を、例えば（1）暮らしがスマート！（2）ビジネスがスマート！として、P.10以降のタイトルを合わせた方がよいのではないかと。	いただいたご意見を参考に、修正します。	○

No	該当箇所	ページ	意見の概要	市の考え方	修正
23	その他	—	「スマートシティ」という言葉が、まずはわかりにくいので、他の日本語に置き換えられないか。日本語への置き換えが無理なら、これを理解してもらうことに多くの時間を費やす必要がある。	スマートシティとは、P3「1 策定趣旨」に記載のとおり、テクノロジーの活用などにより市民生活の質の向上を図るとともに、持続可能なまちづくりを進めるものと捉えており、本市の目指す姿として、P3「3 基本的な考え方」に【みんなでつくる「快・適」なまち】を掲げておりますが、簡便な言葉に置き換えることは困難と考えております。目指すスマートシティの実現に向け、市民を含む多様なステークホルダーの方々とビジョンを共有できるよう、普及啓発に努めてまいります。	—
24	その他	—	スマートシティの定義が書かれていない。新しい技術に振り回されないためにも、目的を見失わないようにするためにも、スマートシティとは何かを明確にする部分を加えてもらいたい。	いただいたご意見を踏まえ、スマートシティの定義をP1「はじめに」の下部に追加いたします。	○
25	その他	—	個人情報保護の観点から、十分な安全性を確保してほしい。個人情報の取り扱いについて案ではよくわからない。個人情報は、個人の意思が入る余地がなく確認もされずに、勝手に情報を使われてしまうようなことがあってはならない。この分野の先進国として有名なエストニアでは、自分の情報を誰にどこまで公開するか決められ、ログで自分の情報にアクセスした人が分かるようになっている。権限は個人にあるという視点を参考にしてほしい。データ連携基盤の部分では、国の方針や支援が待たれるのであれば、千葉市からも必要な要請をしてもらいたい。	個人情報の取扱いについては、サービス検討時の重要事項の一つと捉えており、P8「基本的な考え方④（2）スマートシティ実現のための原則と重視する視点」において、重視する視点の一つに掲げております。個人情報を収集・使用するサービスの検討に当たっては、法令等を遵守することはもとより、有識者の意見や国内外の事例等も踏まえて慎重に検討してまいります。また、データ連携基盤に関する検討に当たりましては、既に国への要望を行っております。	—
26	その他	—	ICTを活用するメリットもあるが、無くても十分生きていける人もいるし、使いたくない人、使いたくても使える環境や財力がない人もいる。そういう方たちを認めること、また、置き去りにしない政策的な配慮や支援についての項目を入れるべき。	個人の価値観を尊重しつつ、デジタルデバイドの解消などに努めてまいります。	—
27	その他	—	学校教育においても、ICTを使うことのない、リアル体験や五感を磨く活動などを、これまでより以上に充実させていくべきと考える。そうした考え方も盛り込んでいただきたい。	学校教育においても、テクノロジーの活用により学びの手法が増えるだけでなく、教員の負担軽減が図られ、それにより創出される時間の一部を体験活動等の拡充のために有効活用することが可能となると考えております。いただいたご意見について、今後の取組みの参考にさせていただきます。	—
28	その他	—	進化するテクノロジーが、様々な場面で今まで障壁になっていたことを超えていける道具になることを期待する。教育、医療、行政の手続きなどで利便性が高くなるようになれば、日常的に生活のクオリティが上がったと感じると思われる。それを享受する主体は市民であり、市民のためのものであるように「市民中心」の原則が具現化するように進めていただきたい。	いただいたご意見について、今後の取組みの参考とさせていただきます。	—